

緑丸のほこらと緑丸



緑小学校の体育館の北側にあるこんもりとした小山の上に、大きな岩がある。その前には小さなほこらがあり、由来が書かれた看板が設置されている。

「昔、緑の字春日沖（あざかすがおき）の鳥の巣に住む百合若大臣（ゆりわかだいじん）は、りこうな鷹を飼っていた。この鷹を「緑丸」と呼び、かわいがっていたが、捕まえた獲物を運ぶ途中力尽きて落ち死んでしまった。百合若大臣は悲しみ、緑丸の落ちたところに小さな祠を建て祭ったという。地名も緑丸にちなんだこの地区では、今も11月15日に緑丸の祭りが行われている。また、※豊後（ぶんご）の国に住む百合若麿（ゆりわかまる）という鉄弓（てつきゅう）の名手が賊を捕まえるために玄海島（げんかいじま）で日和待（ひよりま）ちをしていて置き去りにされた時、飼っていた鷹が故郷（こきょう）の妻の元に飛び、助けを求めたという伝説も残っており、この鷹が緑丸ではないかと言われている。」

このような説は、緑だけでなく全国にもある。また、このような話だけでなく他にも色々な話がある。 ※豊後国……現在の大分県南部の旧国名 大分県北部は、豊前（ぶぜん）